

そこが知りたい!  
そこも知りたい!

# 金の地金取引

## その価値と特性

須江 米夫  
Sue Yoneo

社団法人 日本金地金流通協会\*1 専務理事

今回は「受け取りは105歳になってから!? 金(きん)地金(じがね)の分割前払い取引のトラブルが増加」(2012年11月1日 国民生活センター公表)に関連した情報として、金の地金の価格やその取引方法(一括購入、積み立て)について紹介します。

### 1 金の希少性

金は、古くより人類に不思議な魅力を与えてきました。古代の金崇拜に始まり、ときには権力と富の象徴として尊重されてきました。さらに近代では電子部品等の産業用の素材として技術開発に寄与しています。

人類がこれまでに採掘した金の量は2009年時点では約16万5600トン(オリンピック公式プールの約3杯半)とされ、採掘が可能な現存する金の埋蔵量は約7万トンとみられています。

このように金は非常に希少性の高い金属であり、以前から再利用が活発に行われてきました。現在では年間の需要量である約4,000トンに対して3割ほどがリサイクルによる再生金で賄われています。

再生金については携帯電話や電子機器類のスクラップから回収される量が増えており、それらは「都市鉱山」と呼ばれ注目されています。

### 2 金の不変性

金は、普通では錆びない、きわめて化学的に安定している金属です。硝酸と塩酸とを混ぜ合わせた「王水」やシアン化合物等を除いては化学変化を起こさない性質を持っているため、何百年経ってもその輝きを失いません。また、融点が1,064℃と高いため熱にも強い特徴を持っているほか、導電性や展性にも優れていることから、それらの特性を生かした産業用素材としての役割と、その不変性によって長期にわたって

安心して保有することができる財産としての役割を持ち合わせています。

### 3 金の安定した価値

金は、国際相場商品であるため、その価格は常に変動しています。しかし、同じように価格が変動する株式や債券のようなペーパー資産は、発行体が破綻するなど、場合によってはその価値がゼロになる可能性があります。これに対し金は「無国籍通貨」といわれ、金そのものが普遍的な価値を持ち続けているため、その価値がゼロになることはないといわれています。

そのため、かつては、金本位制度によって金の保有量に合わせて通貨を発行していたという歴史がありますが、その制度がなくなっている現在でも、各国が発行している自国通貨の価値の裏付けとして主要国の中央銀行が金を保有し、通貨価値の安定を図っています。

### 4 世界の金市場とその相場の持つ意味

ところで金の取引は世界中で24時間ほぼ休みなく行われています(図1)。日本で売買される金の大半は輸入によって賄われているため、海外での取引価格は日本での金の価格に大きく影響を与えることとなります。なかでも金現物の指標となる価格を決定しているのがロンドン市場です。一方、ニューヨーク市場はニューヨーク商品取引所で取引される先物取引が中心となっています。海外業者との現物取引では、ロンドンが金現物の中心的な市場ですので、現物の

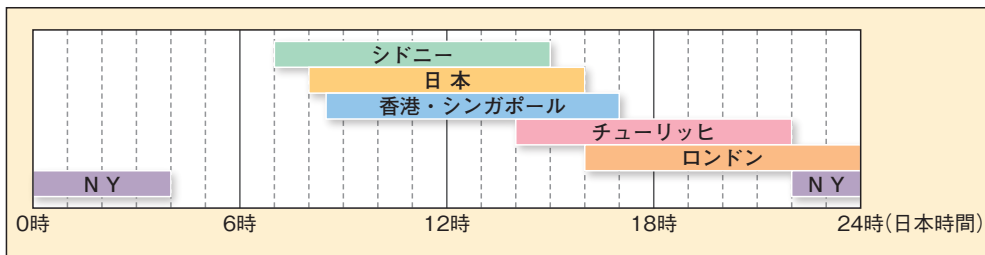


図1 金ロコ・ロンドン相対取引（世界の都市が主要拠点となり、時々刻々と取引）  
金現物の指標となる価格決定の主力市場は、ロンドン市場

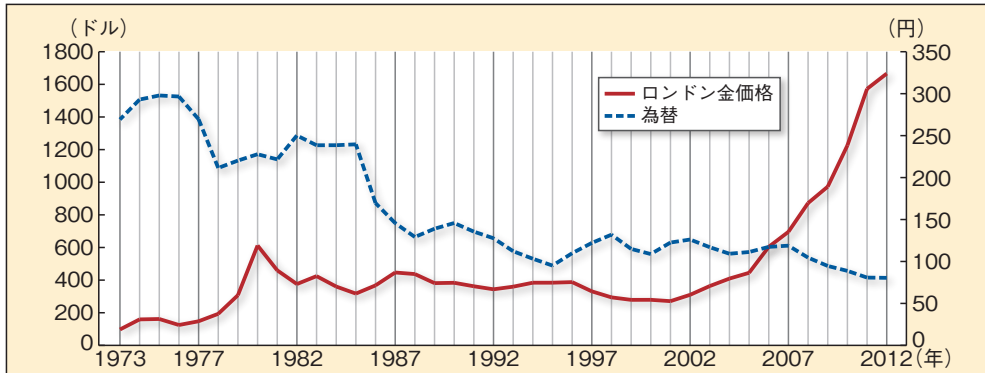


図2 ロンドン金価格と為替（月平均）

受け渡し場所をロンドンとする条件で取引することが一般的で、これをロコ・ロンドン取引といいます。このロコとは取引の受け渡し場所のことを指す言葉です。

国内の金価格は、ロンドン市場やニューヨーク市場の取引を参考にしながら、当日の午前9時半頃の香港やシドニー市場のドル建て価格から各社が各々に1トロイオンス（31.1035グラム）の基準価格を決めます。そして次に、そのときの為替レートに従ってドルから円へ換算し、さらにそれを1トロイオンスから1グラムあたりに換算します。その価格（輸入を前提しているため）に運賃や保険料、手数料（各社により異なる）を上乗せして国内小売価格が決められています。逆に買取価格は、輸出を前提としているため、運賃や保険料、手数料を差し引いて国内買取価格が決められています。

## 5 相場の推移と相場に影響を与える要因

国際的には金はドル建てで取引されますが、日本国内で一般の人が取引する価格は円建てで

す。国内では、たとえドル建ての金価格が変わらなくても、または上昇したとしても為替が円高に動くことで逆に下がってしまうこともあります。1985年以前のドル/円レートは、1ドル＝200円～300円と、現在より2～3倍円安の状況でした。国内の小売価格の瞬間最高価格は、1980年の6,495円で、その時のロンドン金価格（ドル建て）は850ドルでした。2013年1月31日現在の円建てでは価格税抜4,930円程度ですが、ロンドン金価格は1,665ドルです。ドル建て金価格が倍になっても円高の影響が大きく、国内価格は下回っています（図2）。このように為替は、国内の金価格に影響を与える大きな要素です。金は商品としての側面と、各国の中央銀行が金を保有しているように究極の通貨としての側面があります。この点から、一般的にドル建ての金価格は、ドル安になると金の価値が上がることで価格も上がり、ドル高になると下がる傾向があります。為替は、各国の国際収支や財政、金利などさまざまな要素で変化します。

ドル建ての金価格に影響を与えるその他の要

因には図3に示すような価格の「上げ要因」と「下げ要因」があります。大きくは、政治要因、経済要因、需給要因に分けられます。分かりやすい例では、実需要量が鉱山生産量などの供給量を大きく上回れば金価格は上昇します。また、金には利息がつかないので金利が上がれば他の資産のほう

が有利なため、売られて、金価格は下がります。

このように、為替やその他の要因が複雑に絡み合って金価格に影響を与えています。

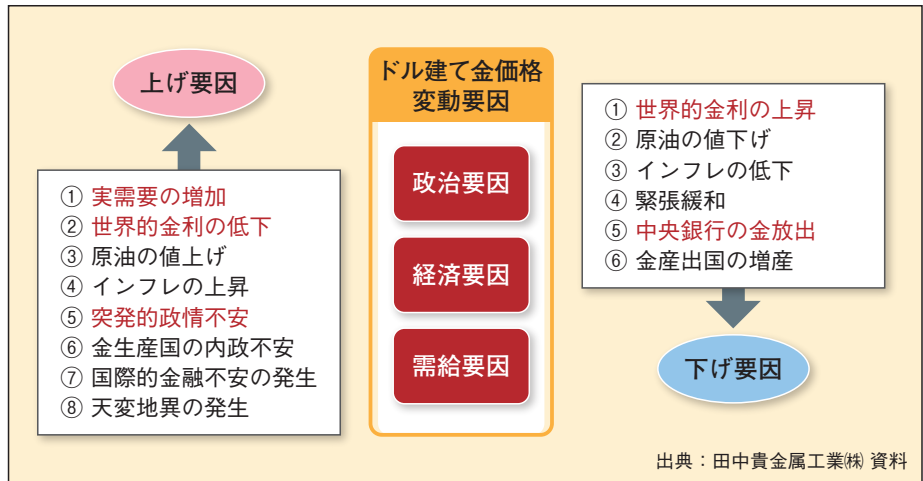


図3 ドル建て金価格の変動要因

出典：田中貴金属工業株 資料

## 6 金への投資

金を投資先の1つとして考える場合、前述したような実物資産であるというメリットや通貨価値の裏付けとして使用されるように、インフレなどによって通貨価値が目減りした場合には金の価格は値上がりし、デフレによって信用リスクが生じた際には実物資産としてその価値は保全されるというメリットがあります。また、保有している地金を貴金属商へ持ち込めば、その日の価格で売却でき、換金性にも優れているといえます。このことから、資産の一部を金に投資することで保全するという考え方があります。

しかし、金へ投資するということは、先に説明したように、金を保有したその瞬間から相場変動リスクが生じることを理解しておかなければなりません。特に、国内で取引される円建て価格は、ドル円の為替相場変動の影響も大きく受けることから、予想外の価格変動によって思わぬ損失リスクを抱える可能性もあります。

## 7 地金の現物取引と先物取引

現物取引とは、金やプラチナといった貴金属

地金やコインなどの現物の受け渡しが行われる取引のことをいいます。現物は原則的に取引時点の価格で売買され、所定の売買手数料を加えて、その場で金銭と現物の交換が行われます。積み立てでは購入した地金を取扱会社が保管します。

購入時より価格が上がったときに売却すればその差額が利益となります。また、購入価格よりも安い価格で売却しない限り損失が確定することはなく、保有しているだけでは税金がかかりません。ただ、売却時には売却益の額により税金がかかる場合があります。現物取引に対して先物取引は必ずしも現物の受け渡しを必要とせず、決められた期間内で先々の価格変動を予想して売買をし、金銭のみで取引が行われます。先物取引は証拠金を積むことにより、少ない投資金額で大きな利益を得ることがありますが、大きな損失を被る可能性もあります。

## 8 地金の種類

一般的に現物取引されている貴金属地金には、金・銀・プラチナの3種があります。地金の表面には、製造番号、業者マーク、品位、重量などが刻印されています(図4)\*2。これらは、取り扱い会社によって違いはありますが、\*3地金の保証書の役割を果たしています。金、プラチ

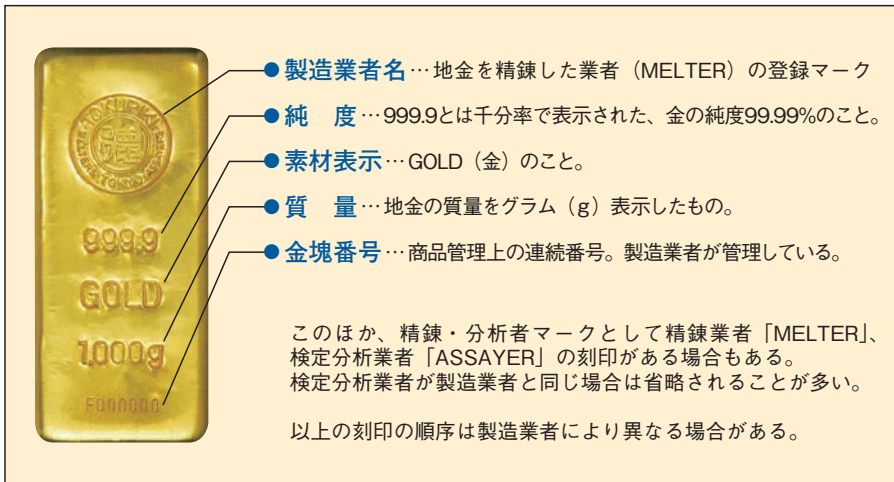


図4 金地金の刻印の例

金は5g程度の少量のものから1kgまで種類が豊富です。銀は30kgで取引されることが多いですが、1kgなど小さいサイズを取り扱う会社もあります。

金は通貨としての歴史を持ち、市場規模が大きいことから、資産を守るためのリスク分散化手段としても多く取引されています。プラチナは工業用途が主な需要を占め、市場規模は金の約1/20と小さく、産出国も限られているため景気の動向、産出国の事情に価格が大きく影響されます。銀も需要の大半は工業用途で、工業用需要の動きに価格が左右される傾向にあります。

### 9 地金の購入場所、売却場所、購入方法とその種類（一括か積立か、その特徴）

貴金属地金は地金商、精錬会社、貴金属店、商社など\*4で売買できます。なかには電話やインターネットで購入の注文を受け付けている会社もあります。また、現物を手にすると保管や価格変動のリスクが伴いますが、このリスクを一括購入と比べて分散できる購入方法が純金積立、プラチナ積立です。積み立てでは、「ドル・コスト平均法」により日々価格が変動する金・プラチナを毎日一定額ずつ買い付けます。価格が“安い日は多く、高い日は少なく買う”ことになり、大きな価格変動によるリスクを低減し、

積み立てを継続した期間の平均価格で購入できます。

なお、積み立てには年会費や毎月の手数料がかかります。購入量については定期的に残高報告書が発行されるほか、積立残高は問い合わせることができ、積み立てで購入した地金の受け取りや売却はいつでもできます。

また、積立購入した地金の保管方法には「特定保管（混蔵保管）」と「消費寄託」があります。特定保管は所有権が購入者にあり、販売会社の財産とは区別して保管されるので、万一販売者が倒産等の状態になった場合も購入者の金地金は守られます。消費寄託は所有権が販売会社に移り、購入者がその返還請求権を持つことになり、万一の場合、返還される金地金もしくは金銭が必ずしも積み立てた全量分とはならない可能性があります。

ところで、最近では積み立てであるかのような説明で、購入した地金の代金を分割払いさせる事業者があるとの報道がありますが、これは積み立てとは異なるものです。

- \*1 1978年の金取引の完全自由化後、私設の金市場による一般消費者の被害が多発し、社会的な問題となった背景の中で、1979年、金地金の健全な流通機構の整備と正しい知識の普及を目的として発足した。会員は協会の定める基準を満たした地金の取引事業者等を中心に構成されている。
- \*2 事実上の世界標準として、LBMA（ロンドン貴金属市場協会）が制定・管理する規格がある。また、厳格な審査に合格した公認精錬業者を認定・登録しており、そのリストは世界の市場で採用され、公認精錬業者の金地金は世界の金市場で流通できる。日本では（独）造幣局のほか、三菱マテリアル（株）、田中貴金属工業（株）、株徳力本店、石福金属興業（株）、三井金属鉱業（株）、日鉱金属（株）、住友金属鉱山（株）、松田産業（株）、アサヒブリテック（株）の9社がこのリストに登録・認定されている（2013年2月26日現在）。各社の精錬したLARGE BAR（12kgの金地金）には各社の商標が刻印されている。[http://www.lbma.org.uk/pages/index.cfm?page\\_id=147&title=good\\_delivery\\_lists](http://www.lbma.org.uk/pages/index.cfm?page_id=147&title=good_delivery_lists)
- \*3 LBMA（ロンドン貴金属市場協会）はLARGE BAR（12kgの金地金）については刻印することを定めているが、それより小さな金地金への刻印は任意となっている。日本国内での金の刻印の項目を定める規定はない。
- \*4 日本国内の取引業者については、LBMAの公認精錬業者のほか、社団法人日本地金流通協会ホームページ<http://www.jgma.or.jp/>にて協会の会員情報で調べることができる。